

環境モニタリング調査結果【陸上動物】

(1) 鳥類繁殖・生息状況調査

③定量調査（ルートセンサス）

- 令和5年9月、令和6年3月～6月におけるルートセンサスでは、9目22科34種の鳥類が確認された。
- アオサギ、ヤツガシラ、カラムクドリ、コホオアカの4種が確認され、累計の確認種数は56種となった。
- 経年の確認種数は14～26種、確認個体数は144～316個体であり、顕著な増減はなかった。



ヤツガシラ



コホオアカ

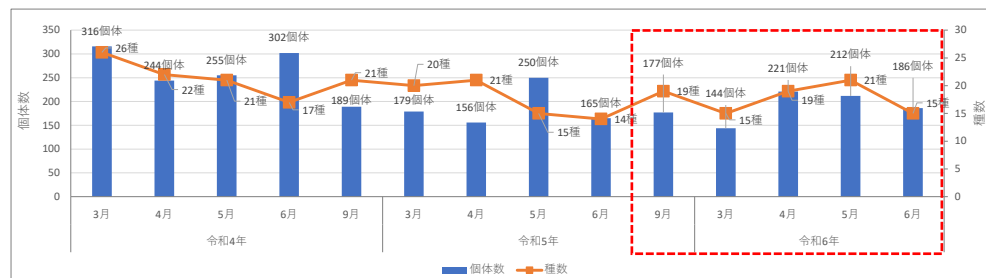


鳥類センサスルート

鳥類ルートセンサス調査結果

赤枠：本調査結果

No.	目名	科名	和名	渡り区分	令和4年						令和5年						令和6年					
					3月	4月	5月	6月	9月		3月	4月	5月	6月	9月		3月	4月	5月	6月		
1	カモ	カモ	カルガモ	留・冬	13	8	3	1			2	3			3					3		
2	ハト	ハト	リュウキュウキジバト	留鳥	7	12	25	28	17	2	14	20	19		22	5		23	19	20		
3			キンバト	留鳥	1	2	9	7	2						4			2	2			
4			チュウダイズアカオバト	留鳥	1	4	10	8							2	1	13	12	11			
5	カウズドリ	ウ	カウズ	冬鳥		1																
6	ベリカン	サギ	リュウキュウシゴイ	留鳥		1													2			
7			ゴイサギ	留鳥							1											
8			ムラサキサギ	留鳥							1								1	1		
9			アマサギ	冬・旅					4		1	1										
10			アオサギ	冬・旅																		
11			ダイサギ	冬鳥					1						1		1		1			
12			チュウサギ	冬鳥																		
13			コサギ	留・冬																		
14	ツル	タイタ	オオカイツル	留鳥		1													1			
15			シロハラタイタ	留鳥	4	11	3	7			9	5	3	6				4	1			
16	アマツバメ		ヒメアマツバメ	夏・旅			2															
17	チドリ	シギ	イソシギ	冬鳥	1	1																
18	タカ	ミサゴ	ミサゴ	冬鳥			1															
19		タカ	カンムリウシ	留鳥	4	5	1	2		1		2	1	1	2	1	2	1	2	2		
20			リュウキュウツミ	留鳥			2		1													
21	フクロウ		リュウキュウコノハズク	留鳥	4	2			1	4		8	3	2			4	4	2			
22			リュウキュウアオバズク	留鳥	1										1							
23	サイチョウ		ヤツガシラ	旅鳥													1					
24	ツバメ		カワセミ	夏鳥			3	3	1		1	2	1	1			6	5	2			
25	スズメ		サンショウクイ	冬・旅					2													
26			リュウキュウサンショウクイ	留鳥	11	7	8	5	4	7	1	8	3	8	4	16	8	5				
27			ハイロウチュウ	旅鳥					2													
28			カササギヒタキ	夏鳥			3	3			1	1										
29			シマツバメ	冬鳥	1	2			2													
30			オサハシトビ	留鳥	14	26	21	34	12	23	17	30	26	34	34	32	42	41				
31			シジュウカラ	留鳥	15	12	2	6	16	1	5	5	1	8	3	3	4	7				
32			ツバメ	冬・旅					15						6							
33			リュウキュウツバメ	留鳥	14	11	8	34	11	1	15	16	13	22	15	12	8	5				
34	ヒヨドリ		インガキヒヨドリ	留鳥	107	80	98	107	27	62	47	90	64	34	36	60	69	57				
35	ウグイス		チヨウセンウグイス	旅鳥	3																	
36			ウグイス	冬鳥	3						8											
37			セマムシクイ	冬鳥	10																	
38			コムクドリ	留鳥	1																	
39			オオシロイ	留鳥	1																	
40	メジロ		リュウキュウメジロ	留鳥	74	49	43	49	40	44	16	37	17	25	28	30	21	23				
41	セッカ		セッカ	留鳥	5	7	7	4	2	2	6				3		1	5				
42	ムクドリ		コムクドリ	旅鳥		1					13				1							
43			カラムクドリ	旅・冬													1					
44			シロハラ	冬鳥	9						1											
45			アカハラ	冬鳥													1					
46			シグモ	冬鳥																		
47			インビヨドリ	留鳥			1				1				1							
48			エノビタキ	冬・旅					2													
49			リュウキュウキビタキ	留鳥	5	1	3	3			2	3	7	3			9	8	5	3		
50	セキレイ		ツメナガセキレイ	冬鳥					15													
51			キセキレイ	冬鳥	6	1			12	2					1	1						
52			ハクセキレイ	冬鳥	1																	
53			ビシヤク	冬鳥					5													
54	ホオジロ		キマユホオジロ	旅鳥							2											
55			シマノジロ	留鳥																		
56			コホオアカ	旅鳥															1			
計	12目	28科	56種	—	26種 316個体	22種 244個体	21種 255個体	17種 302個体	21種 189個体	20種 179個体	21種 156個体	15種 250個体	14種 165個体	19種 177個体	15種 144個体	19種 221個体	21種 212個体	15種 186個体				



赤枠：本調査結果

環境モニタリング調査結果【陸上動物】

(1) 鳥類繁殖・生息状況調査

③定量調査（定点調査）

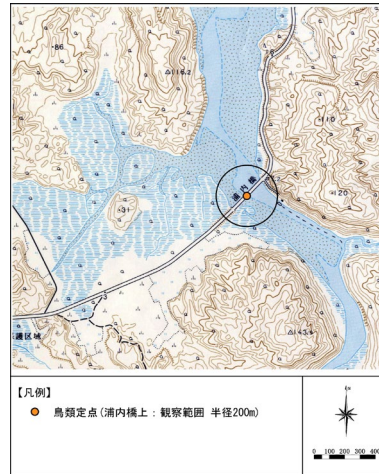
- 令和5年9月、令和6年3月～6月における定点調査では、7目17科27種の鳥類が確認された。
- キンバト、ムラサキサギ、ウズラシギ、カワセミ等の10種が確認され、累計の確認種数は36種となった。
- 経年の確認種数は6～12種、確認個体数は25～61個体であり、顕著な増減はなかった。



ウズラシギ



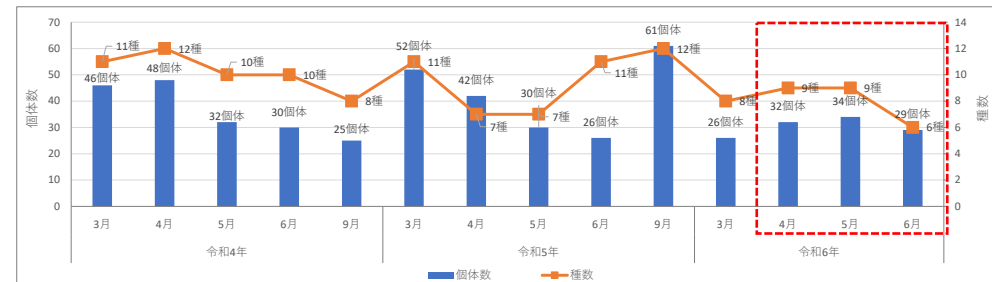
カワセミ



調査定点

赤枠：本調査結果

No.	目名	科名	和名	渡り区分	令和4年					令和5年					令和6年			
					3月	4月	5月	6月	9月	3月	4月	5月	6月	9月	3月	4月	5月	6月
1	カモ	カモ	カルガモ	留・冬	2													
2	ハト	ハト	リュウキュウキジバト	留鳥		3	2	1	2	2	1						4	
3			キンバト	留鳥										1				
4			チュウダイズアカオバト	留鳥													3	
5	ペリカン	サギ	アマサギ	冬・旅										12				
6			アオサギ	冬・旅												1		
7			ムラサキサギ	留鳥													1	
8			ダイサギ	冬鳥				1	2			1	1					
9			コサギ	留・冬		2		1	3		1	3	2	3				
10			クロサギ	留鳥		1							1	1				1
11			カラシナサギ	渡鳥														
12		トキ	クロツラヘラサギ	冬鳥			2					1	2	3				
13	ツル	クイナ	シロハラクイナ	留鳥				1			1							
14	チドリ	シギ	キアシシギ	冬・旅					4									
15			イソシギ	冬鳥	4	3	2			3	1	1		4		7		
16			ウズラシギ	旅鳥													1	
17		カモメ	クロハラアジサシ	旅鳥			4										1	
18	タカ	ミサゴ	ミサゴ	冬鳥	1	1	1			3								
19		タカ	カンムリワシ	留鳥		1									1			
20			リュウキュウツミ	留鳥														1
21	ブッポウソウ	カワセミ	リュウキュウアカショウビン	留鳥								1				1	1	
22			カワセミ	留鳥													1	
23	スズメ	サンショウクイ	リュウキュウサンショウクイ	留鳥	4	1	2	3		1							1	3
24		カラス	オサハシトガラ	留鳥		8	3	3		9		2	5	7		2		5
25		シジュウカラ	インガキシジュウカラ	留鳥										1				
26		ツバメ	ツバメ	冬・旅										7				
27			リュウキュウツバメ	留鳥	11	12	4	8	4	16	17	13	2	8	12	11	12	11
28			イワツバメ	旅・迷				1										
29		ヒヨドリ	インガキヒヨドリ	留鳥	8	9	8	6	6	12	12	5	7	5	5	7	8	7
30		ウグイス	チョウセンウグイス	迷鳥												1		
31		メジロ	リュウキュウメジロ	留鳥	3	5	4	5		4	9	5	3	1	2			4
32		ヒタキ	シロハラ	冬鳥	4													
33			インヒヨドリ	留鳥	1					1								
34			リュウキュウキビタキ	留鳥						1								
35		セキレイ	セキレイ	冬鳥	7	1				1	2			11	1			
36			ハクセキレイ	冬鳥	1													
計	8目	19科	36種	—	46個体	42個体	32個体	30個体	25個体	52個体	42個体	30個体	26個体	61個体	26個体	32個体	34個体	29個体



鳥類定点調査結果（R4.3月～R6.6月） 赤枠：本調査結果

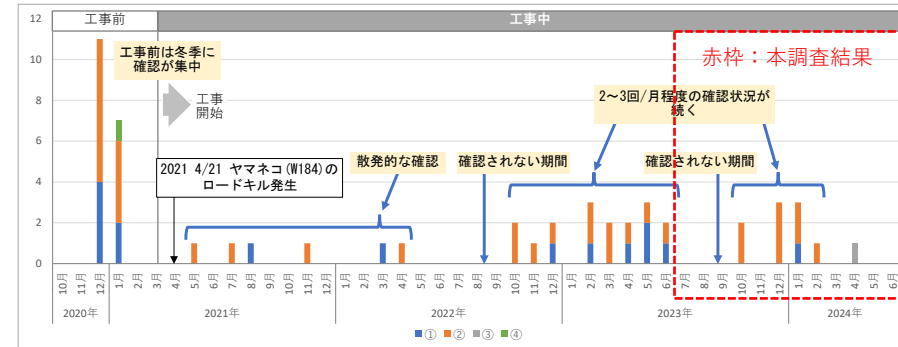
環境モニタリング調査結果【陸上動物】

(2) イリオモテヤマネコの生息状況調査

- 令和2年10月29日に設置した自動撮影カメラにおいて、これまで28種の動物種が確認された。
- イリオモテヤマネコの確認は、工事前の約4か月間で18例であった。これに対し工事中の約3年4か月間では33例の確認であり、工事前に比べ確認頻度が低下している。なお、右岸側では工事前の1例のみの確認となっている。
- 令和5年7月～令和6年6月の確認は10例であり、確認頻度が低下している。
- ただし、工事開始後イリオモテヤマネコの確認頻度は低下しており、移動経路を変更し周辺道路を横断している可能性がある。今後も継続的に注意喚起を行うことが重要である。

自動撮影の経年調査結果

No.	分類群	目名	科名	和名	学名	希少種	撮影機材				
							左岸			右岸	
							①	②	③		④
1	哺乳類	ネコ	ネコ	イリオモテヤマネコ	<i>Prionailurus bengalensis iriomotensis</i>	●	16	35	1	1	
2				イエネコ	<i>Felis catus</i>			1			
3		ウシ	イノシシ	リュウキュウイノシシ	<i>Sus scrofa riukiuanus</i>	●	100	60	1	2	
4				クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>			4			
ー		ネズミ	ネズミ	ネズミ類	ー		1	66	8		
5	鳥類	ハト	ハト	リュウキュウキジバト	<i>Streptopelia orientalis stimpsoni</i>			1		8	
6				キンバト	<i>Butorides striata amurensis</i>	●		1		4	
7		ペリカン	サギ	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>			2	1		
8				ササゴイ	<i>Butorides striata amurensis</i>				1		
9				アカガシラサギ	<i>Ardeola bacchus</i>			4	1		
10				アオサギ	<i>Ardea cinerea jouyi</i>		2	1	1		
11				ダイサギ	<i>Ardea alba alba</i>		4	2	16		
12				コサギ	<i>Egretta garzetta garzetta</i>		7	16	7		
13				クロサギ	<i>Egretta sacra sacra</i>			1	2	2	
14		ツル	ウイナ	オオウイナ	<i>Rallina eurizonoides sepiaria</i>	●				2	
15				シロハラウイナ	<i>Actitis hypoleucos</i>		2	166	26	6	
16				バン	<i>Amaurornis phoenicurus phoenicurus</i>		2				
17				オオバン	<i>Gallinula chloropus chloropus</i>	●		3			
18		チドリ	シギ	イソシギ	<i>Fulica atra atra</i>			6	4		
19		タカ	タカ	カンムリワシ	<i>Spilornis cheela perplexus</i>	●		3		2	
20		フクロウ	フクロウ	リュウキュウコノハズク	<i>Otus elegans elegans</i>	●				1	
21		スズメ	カラス	オサハシフトガラス	<i>Corvus macrorhynchos osai</i>		50	80	13	30	
22				ヒタキ	<i>Zoothera dauma aurea</i>			2			
23				クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>			1			
24				シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>		3	32		1	
25				ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>					1	
26				ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus aureus</i>			1			
27				イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius philippensis</i>					1	
28				セキレイ	<i>Motacilla cinerea cinerea</i>		1	13	1		
合計			10目	12科	28種		7種	11種	22種	14種	13種

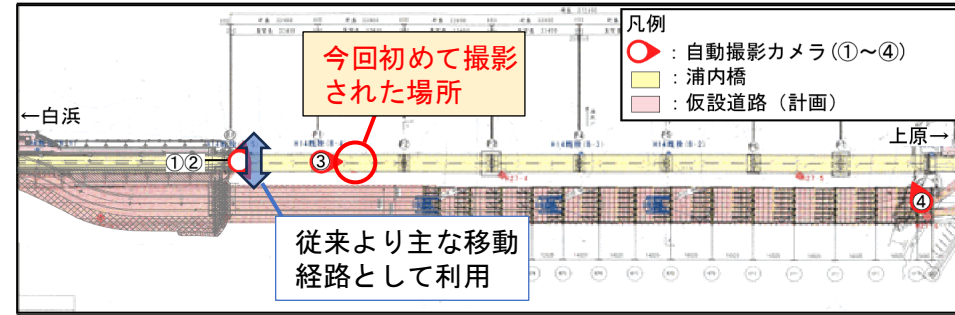


イリオモテヤマネコの確認結果(R2.10月～R6.6月)

環境モニタリング調査結果【陸上動物】

(2) イリオモテヤマネコの生息状況調査

- 令和6年4月には、左岸側の橋脚に設置したカメラ(③)で初めてイリオモテヤマネコが撮影された。イリオモテヤマネコの行動に変化が生じていないか留意する必要がある。



- 撮影されたイリオモテヤマネコ(令和5年10月～令和6年6月)



環境モニタリング調査結果【陸上動物】

(3) ロードキル調査

※以下、ロードキルをRKと略す。

- 調査範囲全域（仲間(大原)港～白浜港）では、R5年度夏季44種2,545個体（うちRK18種260個体）、R5年度秋季45種425個体（うちRK10種73個体）、R5年度冬季28種204個体（うちRK3種7個体）、R6年度春季42種2,399個体（うちRK14種315個体）の動物が確認された。

R5年度夏季調査結果（仲間(大原)港～白浜港）

分類群	哺乳類		鳥類		爬虫類		両生類		甲殻類		計
種数	3	(0)	15	(2)	9	(3)	4	(3)	13	(10)	44 (18)
個体数	5	(0)	133	(3)	33	(5)	1563	(171)	811	(81)	2545 (260)

注) 括弧内の数字はロードキルの確認数をしめす。

R5年度秋季調査結果（仲間(大原)港～白浜港）

分類群	哺乳類		鳥類		爬虫類		両生類		甲殻類		計
種数	4	(1)	21	(2)	7	(4)	3	(2)	10	(1)	45 (10)
個体数	11	(1)	99	(3)	39	(7)	60	(13)	216	(49)	425 (73)

注) 括弧内の数字はロードキルの確認数をしめす。

R5年度冬季調査結果（仲間(大原)港～白浜港）

分類群	哺乳類		鳥類		爬虫類		両生類		甲殻類		計
種数	1	(0)	18	(0)	4	(1)	3	(1)	2	(1)	28 (3)
個体数	2	(0)	117	(0)	6	(1)	69	(5)	10	(1)	204 (7)

注) 括弧内の数字はロードキルの確認数をしめす。

R6年度春季調査結果（仲間(大原)港～白浜港）

分類群	哺乳類		鳥類		爬虫類		両生類		甲殻類		計
種数	3	(1)	15	(0)	8	(3)	5	(4)	11	(6)	42 (14)
個体数	4	(2)	111	(0)	66	(7)	1773	(262)	445	(44)	2399 (315)

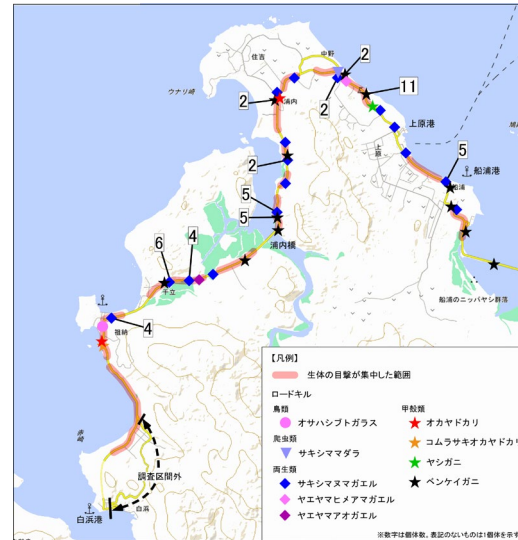
注) 括弧内の数字はロードキルの確認数をしめす。



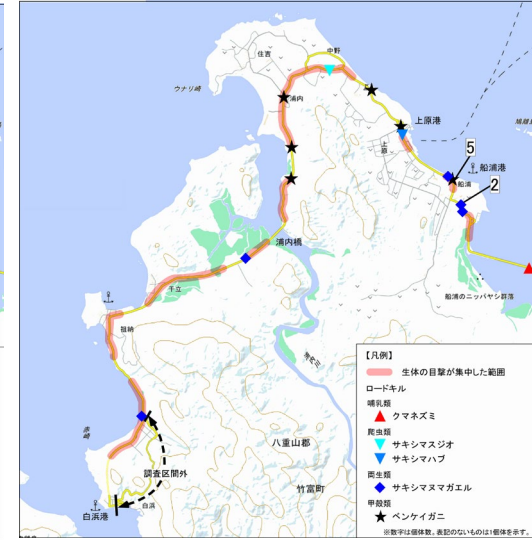
環境モニタリング調査結果【陸上動物】

(3) ロードキル調査

- 浦内橋周辺の区間（船浦港～白浜港）では、R5年度夏季9種73個体(陸生甲殻類4種含む)、R5年度秋季5種19個体(陸生甲殻類1種含む)、R5年度冬季2種4個体(陸生甲殻類1種含む)、R6年度春季11種125個体(陸生甲殻類5種含む)のRKが確認された。
- 環境省HPによると、現在、イリオモテヤネコの無事故日数は500日を超え、継続中である(R6.7月9日現在、564日)。



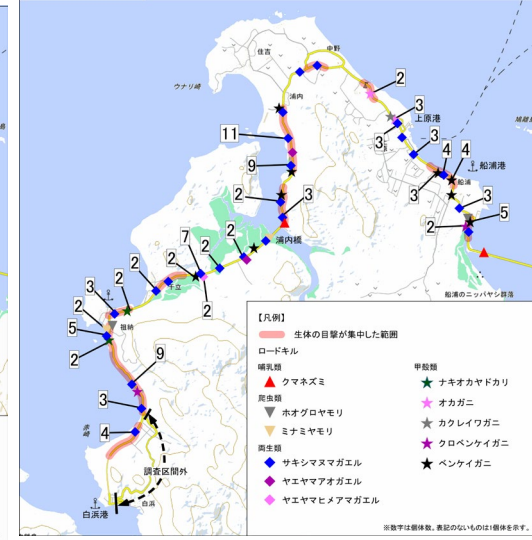
R5年度夏季調査結果
(船浦港～白浜港)



R5年度秋季調査結果
(船浦港～白浜港)



R5年度冬季調査結果
(船浦港～白浜港)



R5年度春季調査結果
(船浦港～白浜港)

環境モニタリング調査結果【陸上動物】

(4) 外来生物調査

- 調査対象とした8箇所のうち2箇所(上原港・仲間(大原)港)で特定外来生物であるハイイロゴケグモ、ニューギニアヤリガタリクウズムシを確認し、駆除を実施した。
- 竹富町自然保護条例における指定外来生物のミナミヤスデをR5年度秋季1個体、冬季1個体、R6年度春季1個体を白浜港で確認し、その駆除を実施した。
- 工事現場や資材置場では特定外来生物や条例指定外来種の確認はなかった。

外来生物調査結果 (R5年度夏季調査)

指定	和名	確認状況								合計
		浦内橋左岸 資材置場	浦内橋 西側道路脇 資材置場	干立 資材置場	工事現場 (築堤(盛土) 設置箇所)	白浜港	上原港	船浦港	仲間港 (大原港)	
特定 外来生物	オオヒキガエル	0	0	0	0	0	0	0	0	確認なし
	シロアゴガエル	0	0	0	0	0	0	0	0	確認なし
	ハイイロゴケグモ	0	0	0	0	0	0	0	19個体 卵のう1 卵のう殻3 (全て駆除)	19個体 卵のう1 卵のう殻3 (全て駆除)
	セアカゴケグモ	0	0	0	0	0	0	0	0	確認なし
	ニューギニアヤリガタ リクウズムシ	0	0	0	0	0	0	0	6個体 (全て駆除)	6個体 (全て駆除)



ミナミヤスデ



調査状況



ニューギニアヤリガタリクウズムシ



ハイイロゴケグモと確認場所(仲間(大原)港)



仲間(大原)港

環境モニタリング調査結果【陸上動物】

(4) 外来生物調査

外来生物調査結果 (R5年度秋季調査)

指定	和名	確認状況								
		浦内橋左岸 資材置場	浦内橋 西側道路脇 資材置場	干立 資材置場	工事現場 (築堤(盛土) 設置箇所)	白浜港	上原港	船浦港	仲間港 (大原港)	合計
特定 外来生物	オオヒキガエル	0	0	0	0	0	0	0	0	確認なし
	シロアゴガエル	0	0	0	0	0	0	0	0	確認なし
	ハイイロゴケグモ	0	0	0	0	0	0	0	15個体 (全て駆除)	15個体 (全て駆除)
	セアカゴケグモ	0	0	0	0	0	0	0	0	確認なし
	ニューギニアヤリガ タリクウズムシ	0	0	0	0	0	0	0	3個体 (全て駆除)	3個体 (全て駆除)
その他 外来生物	ミナミヤスデ	0	0	0	0	1個体 (全て駆除)	0	0	0	1個体 (全て駆除)



ニューギニアヤリガタリクウズムシ(左)
ハイイロゴケグモ(右)

外来生物調査結果 (R5年度冬季調査)

指定	和名	確認状況								
		浦内橋左岸 資材置場	浦内橋 西側道路脇 資材置場	干立 資材置場	工事現場 (築堤(盛土) 設置箇所)	白浜港	上原港	船浦港	仲間港 (大原港)	合計
特定 外来生物	オオヒキガエル	0	0	0	0	0	0	0	0	確認なし
	シロアゴガエル	0	0	0	0	0	0	0	0	確認なし
	ハイイロゴケグモ	0	0	0	0	0	0	0	1個体 (全て駆除)	1個体 (全て駆除)
	セアカゴケグモ	0	0	0	0	0	0	0	0	確認なし
	ニューギニアヤリ ガタリクウズムシ	0	0	0	0	0	1個体 (全て駆除)	0	10個体 (全て駆除)	11個体 (全て駆除)
その他 外来生物	ミナミヤスデ	0	0	0	0	1個体 (全て駆除)	0	0	0	1個体 (全て駆除)



ニューギニアヤリガタリクウズムシ(左)
ハイイロゴケグモ(右)

外来生物調査結果 (R6年度春季調査)

指定	和名	確認状況								
		浦内橋左岸 資材置場	浦内橋 西側道路脇 資材置場	干立 資材置場	工事現場 (築堤(盛土) 設置箇所)	白浜港	上原港	船浦港	仲間港 (大原港)	合計
特定 外来生物	オオヒキガエル	0	0	0	0	0	0	0	0	確認なし
	シロアゴガエル	0	0	0	0	0	0	0	0	確認なし
	ハイイロゴケグモ	0	0	0	0	0	0	0	7個体 卵のう50 卵のう殻3 (全て駆除)	1個体 (全て駆除)
	セアカゴケグモ	0	0	0	0	0	0	0	0	確認なし
	ニューギニアヤリ ガタリクウズムシ	0	0	0	0	0	2個体 (全て駆除)	0	1個体 (全て駆除)	11個体 (全て駆除)
その他 外来生物	ミナミヤスデ	0	0	0	0	1個体 (全て駆除)	0	0	0	1個体 (全て駆除)



ニューギニアヤリガタリクウズムシ(左)
ハイイロゴケグモ(右)

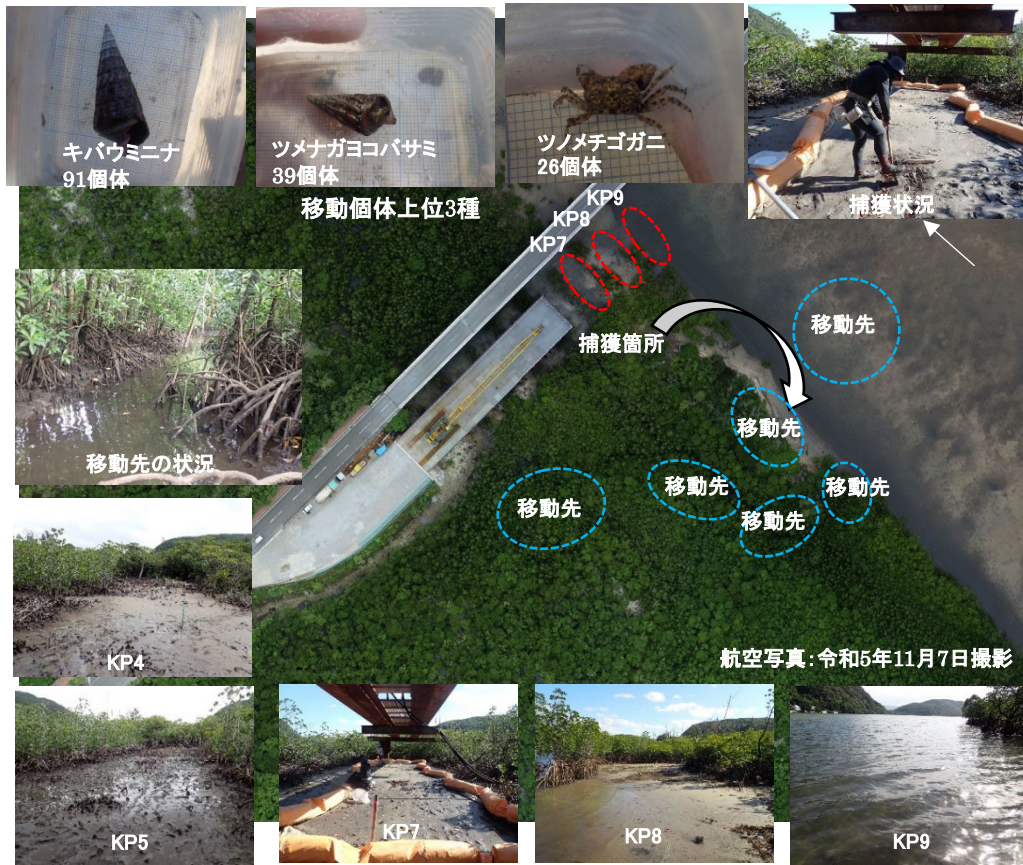
環境モニタリング調査結果【水生生物】



環境モニタリング調査結果【水生生物】

(1) 水生生物の移動

- 令和5年12月26日、27日に鋼管杭の打設箇所(KP7～9)において、24種229個体の水生生物を捕獲し、周辺の生息適地6箇所へと移動した。移動した個体の上位3種はキバウミニナ91個体(40%)、ツメナガヨコバサミ39個体(17%)、ツノメチゴガニ26個体(11%)であった。KP9からは河道内に入りホシドメヒゲワラスボ等の定住性魚類の移動も行っている。
- 築堤及び鋼管杭打設箇所からの移動は計58種6,755個体となった。



築堤及び鋼管杭打設箇所における水生生物の捕獲移動結果

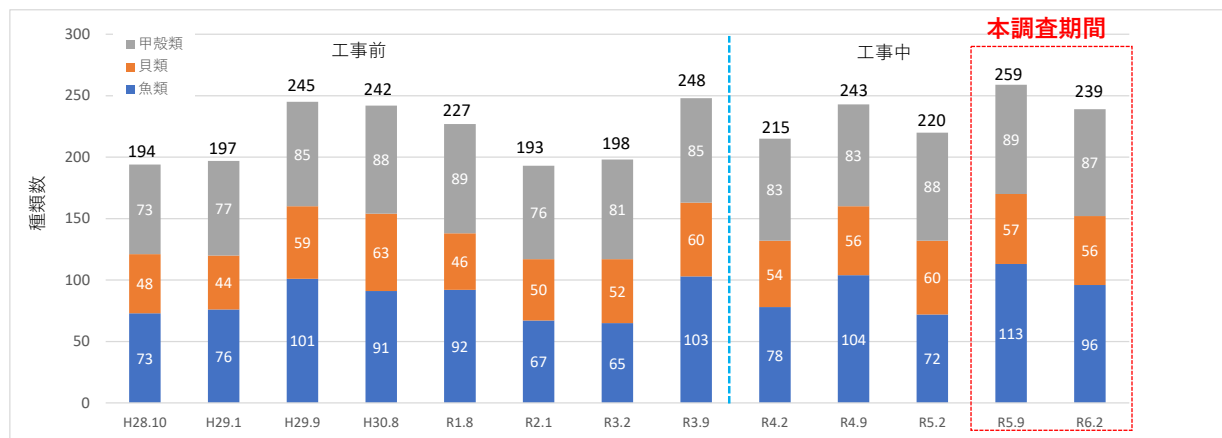
分類	築堤設置箇所			
	第1回 R3.3		第2回 R3.4	
	種数	個体数	種数	個体数
魚類	2	12	3	46
貝類	13	523	8	17
甲殻類	5	482	9	455
その他	0	0	1	1
合計	20	1,017	21	519

分類	鋼管杭打設箇所						合計	
	第3回 R4.9		第4回 R5.5		第5回 R5.12			
	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数
魚類	0	0	1	3	3	9	6	70
貝類	3	1,918	4	2,975	5	95	23	5,526
甲殻類	2	20	10	76	15	124	27	1,157
その他	0	0	0	0	1	1	2	2
合計	5	1,938	15	3,054	24	229	58	6,755

環境モニタリング調査結果【水生生物】

(2) 水生生物の生息状況調査

- 令和5年9月、令和6年2月の調査で夏季が259種、冬季が239種の水生生物を確認し、種数では各季の過去最高を記録した。
- 魚類は工事前65～103種、工事中72～113種、令和5年度は多い。
- 貝類は工事前44～63種、工事中54～60種、令和5年度は大きな変化は無かった。
- 甲殻類は工事前73～89種、工事中83～89種、令和5年度は過去最多種数を記録した。
- 種類数では今のところ顕著な変化は見られていない。



注1) 令和2年1月まで実施していた刺網、定置網で得られた結果を除いて集計している。

水生生物の確認状況の推移

